

## 現場の獣医師からみた鶏の疾病の 発生状況とその特徴（1）

人と鳥の健康研究所  
川崎 武志

養鶏産業における飼育生産は、20世紀後半から今日にかけてきわめて高い生産効率と安定性を実現してきています。その背景を支える大きな土台としては、時代の要請を先取りして生産者のニーズに応えられるよう育種改良とブランド性能を維持するためにたゆまぬ努力を続ける育種会社の存在が大きいのところ。しかし、鶏は生物であるがゆえに、部品を組み立てて人工的に作り上げる工業製品の生産工程とは異なり、1羽1羽の個性がおそらく想像している以上に異なることを避けることができません。その個性は、遺伝的に決定されるほか、受精後から胎生期を経て孵化から成長期に至るまでに遭遇する様々な環境因子の影響を受けて決まります。そのため、群あるいは個体別にみると、成長性や健康状態はさまざま、期待される生産性能を存分に発揮しているものばかりとは限りません。

飼育生産に期待されるパフォーマンスを安定的に実現していくうえで予期せず阻害要因となる事象として、感染性の疾病は飼育生産に関わるすべての人々にとって最も大きな関心事の一つです。近年、国内における鶏の飼育現場では、育種改良によって強化された優れた環境適応性と飼育環境の整備によって大規模に“流行する”感染性疾患はほとんどみられなくなったものの、鶏群単位で比較的大規模に死亡数が増加することのある感染性の疾患は、あいかわらず散発しており、しばしば生産者を悩ます種になります。そこで、近年のわが国の養鶏現場でよく遭遇する感染性の疾患について感染因子の生物分類ごとにまとめ、それらに起因する損失を最小限にしておくためにはどのようなことに注意を払って飼育管理をしていく必要があるか考えてみたいと思います。

### ①ウイルス感染が主体と考えられるもの

封入体肝炎・脾炎・筋胃炎は、肝臓、脾臓あるいは筋胃において、トリアデノウイルスが異常増殖して起こる炎症性疾患です。ウイルスの異常増殖によって炎症病変を生じる臓器器官が複数である場合と一つである場合とがあります。ブロイラーの1～2週齢に多発しますが、それ以外の日齢でも散見されます。著しい動作緩慢・沈うつ・食欲減衰が認められることで発症に気づくことが多いと思います。かつては沈うつ、食欲減退、動作緩慢などの症状が顕著であってもほとんど死亡せずに耐過する場合が多かったのですが、近年では急激に死亡が増加する例も散見されます。死亡する例は病理組織検査において組織傷害が広範囲にわたり、炎症反応も顕著です。とくにブロイラーの場合、出荷に近い日齢で発症したときには廃棄率が高くなって経済損失が大きくなります。

かつて大きな損失をもたらした主要な伝染性のウイルス感染性の疾患は、適切なワクチン接種や衛生措置が普及したことで国内での大規模な流行はほとんどみなくなりましたが、散発的な発生は今なお認めることがあります。これらの発生に際しては、衛生管理やワクチン接種の方法の再確認に加え、飼育管理方法を見直すことで比較的速やかに終息させることができます。

### ②細菌感染が主体と考えられるもの

死亡し、あるいは健康状態のすぐれない鶏に遭遇したとき、それらを剖検した際に乳白色から乳黄白色の水っぽい凝固物が臓器の表面に付着しているのを目にすることがありますが、このような病変から無菌的に材料を採取して細菌分離すると最も頻繁に分離されるのは、大腸菌です。これらはいわゆる大腸菌症と総称される大腸菌の感染が関係する病態の表現形の一つで、大腸菌の感染による線維索性漿膜炎です。線維索性漿膜炎は大腸菌以外の細菌の感染によっても

起こりますが、日常的に遭遇するこの病変例では大腸菌感染による場合が突出して多いことから、一般にはこの病変を確認することで“大腸菌症(大腸菌感染症)”と診断しているケースが多いようです。鶏が大腸菌に感染する機会は、飼育環境中での糞便やその粉塵との接触、皮膚や粘膜の傷害の頻度や程度と関係して高くなると考えられます。

ブドウ球菌は皮膚などに常在する細菌で、皮膚炎や外傷局所に増殖し、ときに体内に侵入して全身感染を起こしたり遠隔部位に膿瘍を形成したりすることがあります。化膿性関節炎はしばしば鶏群単位で散発し、歩行の異常をきたすことで発見されますが、これらの病変からは黄色ブドウ球菌(スタフィロコッカス・アウレウス)が分離されることが多いです。黄色ブドウ球菌以外のブドウ球菌(スタフィロコッカス・レンタス、スタフィロコッカス・シミュランス、など)は、化膿性関節炎のほか、大腸菌などの感染による病変や著明な肉眼病変を認めない部位や健全な鶏の血液からもしばしば分離されます。これらの単独感染によって発病することはほとんどありませんが、感染による体への負担や影響は少なからずあるのではないかと考えられます。

1~2週齢に至るまでだらだらと異常な発育不良のヒナが出てくるときはサルモネラ属菌の感染が関与していることがあります。これらの異常な発育不良のヒナは、やや動作が緩慢になる程度でなかなか死亡しないというのが特徴であるケースが多いです。これらの発育不良ヒナを淘汰して剖検しても、感染初期の段階では目立った肉眼病変は認められず、日齢が高くなって発見されるものでは少しずつ目視できる程度の線維素化膿性漿膜炎がみられるようになります。とくにサルモネラ・エンテリティディスやサルモネラ・ティフィムリウムおよびそれらの変異株が関与しているものでは、耐過しても保菌しているものが少なからず存在するため、種鶏として飼育される鶏群では種卵による垂直感染に注意が必要です。(次号に続く)



鶏大腸菌症生ワクチン  
**ガルエヌテクトCBL**

好評発売中!

鶏伝染性気管支炎生ワクチン  
**ガルエヌテクトS95-IB**

日生研 **ニューカッスル** 生ワクチンS 日生研 鶏 **コクシ** 弱毒3価生ワクチン(TAM)

日生研 **C-78**・IB生ワクチン 日生研 鶏 **コクシ** 弱毒生ワクチン(Neca)

日生研 **MI**・IB生ワクチン 日生研 **EDS** 不活化ワクチン

日生研 **NB** 生ワクチン 日生研 **EDS** 不活化オイルワクチン

日生研 **ILT** 生ワクチン 日生研 **MG** 不活化ワクチンN

日生研 **IBD** 生ワクチン 日生研 **コリーザ** 2価ワクチンN

日生研 穿刺用 **鶏痘** ワクチン 日生研 **ACM** 不活化ワクチン

日生研 乾燥 **鶏痘** ワクチン 日生研 **NBBAC** 不活化ワクチン

**AE** 乾燥生ワクチン 日生研 **NBBEG** 不活化オイルワクチン



日生研株式会社

〒198-0024 東京都青梅市新町9-2221-1  
<http://www.jp-nisseiken.co.jp>  
 **0120-31-5972**